

日本科学哲学会 第43回(2010年)大会

期日：11月27日(土)・28日(日)

場所：大阪市立大学 杉本キャンパス

住所：〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

交通案内：

JR 阪和線「杉本町(大阪市立大学前)駅」下車、東へ徒歩約5分
地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約20分
(最寄駅への経路と所要時間)

新大阪からJRもしくは地下鉄御堂筋線にて約1時間

関西国際空港からJR 関空快速(堺市駅で各停に乗換)にて約1時間

大会参加費：1000円

11月27日(土)

研究発表 (9:30-12:30)

《A会場》 司会：1-3 松本 俊吉 (東海大学)、4-6 北島 雄一郎 (京都大学)

1. 石田 知子 (日本学術振興会・慶應義塾大学)・・・発生学における位置情報について
2. 網谷 祐一 (ブリティッシュ・コロンビア大学)・・・「連続 vs. 離散」の対立はどのような意味で種問題の存続の原因か
3. 串田 純一 (日本学術振興会・東京大学)・・・生命現象に見る脱抑止という機構
4. 杉尾 一 (慶應義塾大学)・・・時間対称化された量子力学による実在概念の転回
5. 横尾 剛 (慶應義塾大学)・・・弱い値と反事実的条件法からみた量子論理における未解決問題
6. 鈴木 秀憲 (名古屋大学)、長縄 直崇 (名古屋大学)・・・実験の現実：OPERA 実験を題材に

《B会場》 司会：1-3 柏端 達也 (千葉大学)、4-6 小山 虎 (大阪大学)

1. 山口 尚 (京都大学)・・・宿命論の擁護
2. 鈴木 生郎 (慶應義塾大学)・・・三次元主義と四次元主義は何について対立しているのか
3. 西條 玲奈 (北海道大学)・・・性質の内在性・選言性・「自然性」
4. 秋葉 剛史 (日本学術振興会・慶應義塾大学)・・・Truthmaker 理論とはどのような理論なのか
5. 吉沢 文武 (千葉大学)・・・生者と死者の通時的同一性について
6. 重永 哲也 (四国学院大学)・・・死者は存在する

《C会場》 司会：1-3 村上 祐子 (東北大学)、4-6 飯田 隆 (日本大学)

1. 高橋 優太 (慶應義塾大学)・・・論理法則の正当化に対するフレーゲのアプローチ
2. 鈴木 真奈 (京都大学)・・・意味論的パラドックスの一元的解決の可能性
3. 鈴木 聡 (駒澤大学)・・・顕著な類似性に基づく曖昧述語論理の測定理論的基礎
4. 竹村 亮 (慶應義塾大学)・・・オイラー図推論の証明論的分析：Free ride property と正規形証明
5. 久木田 水生 (京都大学)・・・余論理式の意味と証明
6. 矢田部 俊介 (産業技術総合研究所)・・・余帰納法のパラドックス

《D会場》 司会：1-3 鈴木 貴之 (南山大学)、4-6 服部 裕幸 (南山大学)

1. 源河 亨 (慶應義塾大学)・・・音はどこにあるのか
2. 佐藤 えり (名古屋大学)・・・視覚経験において触覚が果たす役割の捉え方
3. 新川 拓哉 (北海道大学)・・・我々は何を知覚していなければならないのか？
一常識的な存在論・認識論・意味論からの知覚理論への制約一
4. 佐古 仁志 (大阪大学)・・・ラディカルな身体性認知科学とその展望
5. 呉羽 真 (京都大学)・・・拡張した認知か埋め込まれた認知か？
6. CHANG Chit-Yee (東京大学)・・・The Problem of Implementation in Computationalism

理事会・評議員会・大会実行委員会 (12:30-13:30)

総会〔石本賞授与式〕 (13:30-14:15)

ワークショップ (14:15-16:30)

《A会場》

- I. 知覚の哲学——知覚の概念性と現象性
オーガナイザ：村田 純一 (東京大学)
提題者：小草 泰 (大阪市立大学)、小口 峰樹 (玉川大学)、
村井 忠康 (慶應義塾大学)

《B会場》

- II. 時間割引と通時的合理性
オーガナイザ：信原 幸弘 (東京大学)
提題者：塩野 直之 (東邦大学)、染谷 昌義 (高千穂大学)、
山本 愛美 (玉川大学)

特別講演 (16:45-17:45)

講演者：伊藤 正人 (大阪市立大学)

講演題目：価値を測る：マッチング関数から需要関数まで

司会者：丹治 信春 (日本大学)

懇親会 (18:00-20:00)

会費：一般 5,000円 学生 3,000円

会場：第一学生ホール

11月28日(日)

ワークショップ (9:30-11:45)

《A会場》

Ⅲ. 社会構成(構築)主義の現在

オーガナイザ・提題者: 出口 康夫 (京都大学)

提題者: 中河 伸俊 (大阪府立大学)、横山 輝雄 (南山大学)

《B会場》

Ⅳ. 哲学の範囲を描き直す Redelineate Philosophy

オーガナイザ・提題者: 村上 祐子 (東北大学)

提題者: 小山 虎 (大阪大学)、矢田部 俊介 (産業技術総合研究所)、山田 圭一 (山形大学)

理事会・編集委員会・大会実行委員会 (11:45-12:45)

研究発表 (13:00-15:00 / C、D会場は 14:30 まで)

《A会場》 司会: 1-2 三好 博之 (京都産業大学)、3-4 柏端 達也 (千葉大学)

1. 星川 道人 (東京大学) 欲求は命題的態度か
2. 上田 知夫 (東京大学・ポーフム大学) 信念内容の伝達と命題的態度の報告
3. 川口 由起子 (植草学園大学) 発話理解における意図概念の再検討
4. 松阪 陽一 (首都大学東京) 数形容詞の意味論的内容について
藤川 直也 (日本学術振興会・首都大学東京)
四津 雅英 (東京海洋大学)

《B会場》 司会: 1-2 西脇 与作 (慶應義塾大学)、3-4 小林 道夫 (京都大学)

1. 青木 滋之 (会津大学) 科学哲学のテーゼのテスト —地球科学の形成を事例に—
2. 伊勢田 哲治 (京都大学) 境界設定問題はどのように概念化されるべきか
3. 浅岡 将人 ブルデュー社会学におけるフランス・エピステモロジー —数理経済学の哲学も踏まえた発展的考察—
4. 村上 祐子 (東北大学) 論理学教育: アンケートの結果および要改善点

《C会場》 司会: 1-3 岡本 賢吾 (首都大学東京)

1. 西堤 優 (日本学術振興会・東京大学) 意志と双曲的時間割引
2. 三木 秀夫 (縞ミキ・クリエーション) 帰納の論証規則
3. 坂本 真 (神戸大学) カルナップの『構築』を読み直す

《D会場》 司会: 1-3 鬼界 彰夫 (筑波大学)

1. 坂倉 涼 (千葉大学) 自己知における「透明性」概念をめぐるエヴァンズ、モラン、ウィトゲンシュタイン
2. 宮園 健吾 (日本学術振興会・東京大学) 内語と自己知
3. 島村 修平 (日本学術振興会・日本大学) 意図の自己帰属の直接性と透明性説

シンポジウム (15:15-17:45)

「ロボット工学と哲学——学際融合研究での科学哲学の役割」

司会: 山田 友幸 (北海道大学)

提題者: 石黒 浩 (大阪大学)、金野 武司 (北陸先端科学技術大学院大学)、柴田 正良 (金沢大学)、中山 康雄 (大阪大学)

『科学哲学』バックナンバー

4 (1971年)	23 科学哲学の未来を問う	37-1 (2004年)
5 (1972年)	24 異文化理解の基礎	37-2 時間の実在性
6 (1973年)	28 カオスをめぐって	38-1 (2005年)
7 記号・情報・論理	29 特集1 デュエムの科学哲学の現代的意義	38-2 フレーゲの現代性
8 行為の理論	特集2 サイバネティクス	39-1 (2006年)
9 様相論理学	30 近代における科学と哲学	39-2 相対性理論 100年
10 心身問題と道徳	31-1 (1998年)	40-1 (2007年)
11 解釈とモデル	31-2 生物学的説明	40-2 数学の論理と哲学
12 言語と非言語	32-1 (1999年)	41-1 (2008年)
13 社会科学と哲学の間	32-2 医療の哲学に向けて	41-2 非合理性とは何か
14 論理とは何か	33-1 (2000年)	42-1 (2009年)
15 科学哲学の展望	33-2 心・生命・コンピュータ	42-2 脳科学と社会
17 合理性とは何か	34-1 (2001年)	43-1 (2010年)
18 志向性について	34-2 進化論から見た心と社会	
19 言語理解	35-1 (2002年)	
20 意識・機械・自然	35-2 クワインの哲学—回顧と展望	
21 <私>の同一性	36-1 (2003年)	
22 科学と反—実在論	36-2 ラッセルのパラドックス・100年	

購入を希望される方は、事務局までご連絡ください。(1~3、16、25~27号は在庫切れです。)

下記のアドレスからネット公開されているバックナンバーが閲覧できます。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpssj/-char/ja>

●入会を希望される方は日本科学哲学会事務局(〒156-8550 日本大学文理学部哲学研究室内)

FAX: 03-5317-9217、e-mail: philsci@chs.nihon-u.ac.jp へご連絡ください。